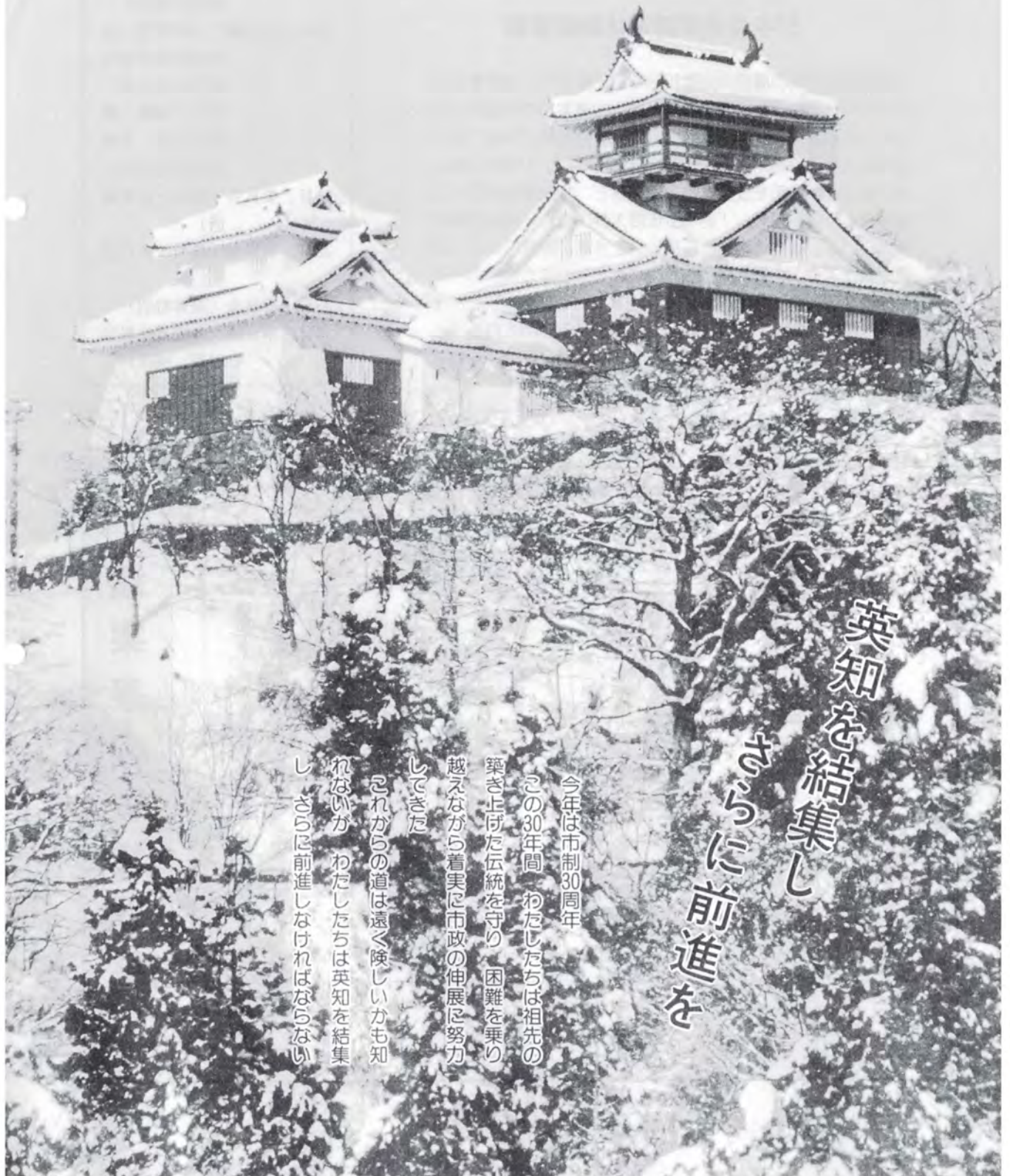


おおの議会だより

No. 56
59.2.1



英知を結集し

さらさら
に前進を

今年は市制30周年

この30年間 わたしたちは祖先の
築き上げた伝統を守り、困難を乗り
越えながら着実に市政の伸展に努力
してきた

これからの道は遠く険しいかも知
れないが わたしたちは英知を結集
し、さらさら前進しなければならぬ

一般会計は88億8,000万円に

10議案を可決・承認

57年度決算認定は継続審議

第209回定例市議会は58年12月13日招集され、会期を26日までの14日間と定め、理事者から提出の議案10件を審議しました。その結果「昭和58年度大野市一般会計補正予算」「昭和58年度大野市簡易水道事業特別会計補正予算」「大野市立集会所設置条例の一部を改正する条例」など、10議案を原案どおり可決・承認・同意。「昭和57年度大野市歳入・歳出決算認定について」は継続審議としました。また、最終日には、議員提案による「大野市議会議員の定数を減少する条例の一部を改正する条例」を可決し、現行26人（法定数30人）をさらに2人減らして24人とし、次の一般選挙から適用されることになりました。市民の皆さんから出されました請願・陳情は別掲のとおり決めました。

12月定例会

審議日程

- 13日 本会議（会期の決定、議案上程、提案理由の説明）
- 20日 本会議（一般質問、決算特別委員会の設置及び委員の選任、請願・陳情の上程、各案件委員会付託）
- 21日 委員会（建設・産業経済）
- 22日 委員会（総務・教育民生）
- 23日 委員会（決算特別）
- 26日 本会議（各委員長報告質疑、採決）

		議案番号		議案等の審議結果	
第一号	第二号	件名	結果		
一月臨時会		第五十五号	昭和五十八年度大野市一般会計補正予算（第六号）	原案可決	
		第五十六号	昭和五十八年度大野市簡易水道事業特別会計補正予算（第二号）	"	
		第五十七号	昭和五十八年度大野市水道会計補正予算（第一号）	"	
		第五十八号	大野市一般職員の給与に関する条例の一部を改正する条例	"	
		第五十九号	大野市立集会所設置の一部を改正する条例	"	
		第六十号	大野市公民館設置条例の一部を改正する条例	"	
		第六十一号	県営土地改良事業の負担について	"	
		第六十二号	専決処分の承認を求めることについて（一般会計補正予算（第五号））	承認	
		第六十三号	昭和五十七年度大野市歳入歳出決算認定について	継続審査	
		第六十四号	監査委員の選任について	同意	
市会案第三号	大野市議会の議員の定数を減少する条例の一部を改正する条例	原案可決			
第一号	立会演説会に関する条例を廃止する条例	原案可決			
第二号	大野市農業者健康管理センター新築工事請負契約について	"			

市政をきく 一般質問から

来年度予算編成 に対する姿勢

問 来年度の予算編成についての基本方針、重点施策をどこに置くのか。さらに、予算規模はどのように考えているのか。出来るだけ具体的に聞きたい。さらに、先般国会で成立した行革法案をどのように受け止めているのか。

答 国の経済状況が50年以来低成長時代に入っている。そのため、国債発行によって累積赤字が増え財政が非常に厳しい状態に至っている。地方の財政も国と同様に財源不足を生じ大変苦しい。59年度予算編成に当たっては、受益者負担の適正化、国・県の補助事業の適格な見積りを図るとともに、徹底した経費の節減に努め計画的に行政を推進したい。

経常経費を5%マイナスし、その経費を投資的経費に振り向け、振興計画の中で緊急性の高い事業を厳選して行いたい。最終的には58年度当初予算とほぼ同額になるものと考えている。

30周年を機に最少の経費で最大

の効果を上げるよう努めたい。

国では9月議会において行革法案等関連法案が成立したが、われわれ自治体も国と同様、真剣に行政の見直しをしたい。

工場誘致の専門職が置いてあるが今後の進展はどうか

問 市はこの度助役を本部長として、企業立地推進本部を設置し専門職を配置しているが、これまでの取り組みの経過と現状、さらに今後の見通しについて伺いたい。

答 今年7月に現在の農林商工課に専任職員課長補佐を配置し、各担当課長から成る企業立地推進本部を設置した。これまで東京や関西方面、福井県事務所をはじめ直接企業へ出向き鋭意努力している。当市には工業団地がないことや雪が多いこと、道路網の整備が遅れていること、工業用水・上水道がないことなどが指摘された。

一方、当市に進出している7社に出向いて懇談をしたが、ほとんどの企業が労働力が豊富なので出来れば大野で増設をしたい考えを持っていることが分かった。

また、これらの企業が現在外から持ち込んでいる原材料を当市で生産する方法も考えられるので、今後企業の希望や条件を聞いて努力したい。



汚れが目立つ市街地の河川

下水道建設についての 今後の方策はどうか

問 下水道の整備は近代的な都市の建設にとっての必須条件であり市民の要望も高まってきている。

先般の機構改革でもこれに対する所管部門が新設されたので、鋭意取り組んでいるとは思いますが、この事業に対する基本構想は出来ているのか。また、その中枢施設である終末処理場の構想・場所・規模はどうか。さらに、用地の確保のための地元との話し合いがどの程度進んでいるのか。また、見直しはどうか。

答 下水道計画は昭和46年に立てたものであるが、時代的に変わっているので見直しをしたい。終末処理場の用地については、昨年来新在家地区の方と折衝を進めているが困難性が多い。地元の皆さんの希望も聞いて協力を得たい。

下水道建設は多額の経費を要するため、市民の皆さんの負担が大きいため十分コンセンサスを得る必要があり、相当の年月を要し、さらに、上水道との関係もあるので計画立案に真剣に取り組みたい。

工事着工がいつになるかは今のところはっきり出来ないが、県下7市で公共下水道がないのは当市だけなので精力的に努力したい。

機構改革における 行政効果について

問 先般、事務の効率化を図り市民サービスの向上のため、機構改革が行われ大課制が実施されたが市民の側からみると役所のまとまりがなく戸惑いが多いようだ。これは十分な部屋割りをせずに機構の改革を行ったためで、すっきりした体制が整ってないからである。

この際、庁舎を増築して本当に行政効果が上がるような体制にすべきだと思うが、来年度において増築する考えはないか。

答 機構改革を行ったことで、なじみの深い課がなくなつたということもある。こうした

改革を行うと、当分はいろいろと迷惑をかけることもあると思うが、職員のサービスでそのようなことのないように心掛けたい。

庁舎の増築については、教育委員会が現在別の所へ出ているし、また、消防庁舎の移転問題や南校跡地の整備等、市役所周辺の整備と併行して考えていきたい。来年ということは考えていないが、出



庁舎の増築問題で移転も考えられる消防庁舎

議員定数を削減

2人減らし24人に

次の一般選挙から適用

最終日の26日に議員提案により「大野市議会議員の定数を減少する条例の一部を改正する条例案」が提案され、賛成多数で可決されました。

議員の法定数は人口段階によって、法律でそれぞれ自治体ごとに定められており、本市の場合は30人となっています。

しかし、本市は昭和42年9月に財政再建団体に指定されたた

め、4人を減員して26人とし、昭和46年の一般選挙から施行されてきました。

ところが近年、国・地方を問わず行財政改革が唱えられ、国民的な課題となってきたため、当市議会としてもこのような現在の社会情勢と財政事情に対処し範を示そうと、さらに2人減員し24人になりました。改正された定数は次の一般選挙から適用されます。

来るだけ我慢をしていただき、近い将来は増築をしなければならないと考えている。

友好都市について

問 現在本市では、ゆかりのある町の交流協議会が発足し、将来の展望に向かって鋭意努力中であるが、県下各市では既に友好都市あるいは姉妹都市の締結をしているところが多い。本市も来年は市制30周年を迎えるが、より幅広く文化あるいは経済・産業の発展につながるような都市との友好・姉妹関係を図る気はないか。また、そのような考えがあるとすれば窓口はどこにするのか。

答 本市の場合は北海道の三石町と友好都市という間柄になっている。現在、大野市ゆかりのある町交流協議会でいろいろと本市とゆかりのある都市の調査を進めているが、調査がまとまればそうした都市と文化交流や経済的な交流を深めたいと考えている。交流を深

めることによって友好都市から姉妹都市になっていく場合も考えられるが、協議会で十分検討してもらいたいと思っている。窓口は農林商工課の商工観光係である。

町の区域および 名称の変更について

問 現在使用されている町名については、市民の中から大変分りにくくて困るという意見を耳にするが、これについて市長はどう思うか。

答 新町名を実施して既に十数年になるが、まだ現在の町名についてなじまないという意見や、区画割りも分りにくいという声を聞く。特に縦通りについては1番・2番・3番という方がわかりやすいので、最近、旧町名に復活することを考える市民の会が作られるような話も聞いている。

しかし、その地域に住んでいる方の十分な理解がなければ出来ないし、多額の経費を要する事業であるから慎重に対処したい。

地域に即応した集落農業の推進について

問 県は今年から新しい政策として集落農業の構想を打ち出しその推進に取り組んでいる。しかし、県が進めている集落農業はあくまで県全般的のものであり、奥越のように雪の多い地域にはそぐわない点もある。当市にマッチした集落農業の像を考えて進めなければならないと思うがどうか。また、集落農業を進めることによって余剰労力が生じてくるが、この労力を吸収するため、集落ごとに関連企業を誘致する必要があると考えるが、どうか。

答 集落農業が目的としているのは農家所得の増大であるので、機械の共同購入等で出てくる余剰労力の吸収や農地の高度利用、あるいは周年型農業を進めることなどを考える必要があると思う。周年型農業の定着については豊作貧乏にならないような行政指導をするため、各農業団体の皆さんといろいろ協議して営農指導をしたい。

小規模な企業の誘致については既にいくつかのいい工場が進出しており、今後もそうした企業の誘致に努力をしたい。環境破壊や汚染防止等の整備についても十分注意しなければならないが、誘致がはっきりした段階でどういう企業が見極めて対処したい。



集落農業が進められる農村



図書館建設が予定されている南校跡地

図書館問題について

問 来年度建設される市立図書館の規模・人員配置はどのようにする予定か。

答 規模は約1,600㎡で、スペースとしては4万7,500冊程度分であるが、最終的には一般蔵書4万冊を目標にしている。

その他2万冊ぐらいが収蔵出来る書庫も予定しており、郷土資料などを収蔵したい。職員の配置については館長のほか、公立の図書館に準じたい。

大野市における環境行政について

問 浄化槽の普及による污水対策問題、ごみのリサイクル問題、化

学物質の焼却による公害発生問題等、環境問題についてどのように考え処置しているのか。

答 簡易浄化槽の普及による污水対策については県の指導範囲になっているので、保健所に対して指導を徹底するよう要望している。

浄化槽の管理方法等については11月の市報でも取り上げ、市としてもPRはしている。生ごみについては今年から自家処理をする容器の普及ということで、補助金を出しごみの減量化に努めている。

リサイクル運動については市民の100%の協力がなければ出来ないが、熱心にこの問題に取り組んでいる消費者グループ協議会等の協力を得ながら、システム化に向けて努力したい。また、化学物質の燃焼の際発生するダイオキシンについては、国も調査を始めたのでその結果を待って対応したい。

210回1月臨時市議会

2 議 案 を 可 決

去る1月23日、第210回1月臨時市議会が開かれ、理事者から提出された、公職選挙法の改正に伴う「立会演説会に関する条例を廃止する条例」と、上野

地係に建設される「大野市農業者健康管理センター新築工事請負契約について」の2議案を審議した結果、いずれも原案どおり可決しました。

下水道事業対策など 2特別委員会を設置

昭和57年度大野市歳入・歳出決算の認定について慎重に審議するため、決算特別委員会を設置しました。

また、市民生活の環境と水質の保全を図り、下水道事業を推進するため下水道事業対策特別委員会も設置されました。委員は次のとおりです（◎は委員長、○は副委員長）

決算特別委員会

◎高津靖生 ○幅口 登 大葎原 登 羽生 長 西川文人 林 保信

下水道事業対策特別委員会

◎宮本 弘 ○林 保信 木下 境 藤田 護 砂子三郎 杉本夏男 斉藤秀雄 山本 武

監査委員の選任

西川氏に同意

任期満了に伴う監査委員の選任が行われ、西川長一氏の再任に同意しました。

虚礼を自粛

議員が申し合わせ

大野市議会はこの度、虚礼になりがちな年賀はがきや暑中見舞については、今後自粛することを申し合わせました。

また、政治団体や親族以外にはしてはならない寄付行為（花輪・供花・香典・祝儀等も含む）についても、これを厳守することを確認しました。

委員会報告は省略します

毎号、各委員会で審査した議案や請願・陳情等の結果を委員長報告としてお知らせしていま

すが、今回は特に問題点や指摘事項等がほとんどなかったため省略します。

請願・陳情審議結果

番号	件名	提出者	結果
請願9号	弥右エ門川改修工事について	大桜農家組合長 敷下八七男 猪島用水代表者 宮西英太郎 外4名	採 択
請願10号	二番下通り及び二番下横通り（正善町）道路舗装改修について	本町2下区長 久保岩雄	採 択
陳情17号	流雪溝整備について	天神町区長 松田国也	採 択
陳情18号	公用車タイヤの整備発注について	高岡車輛(合) 高岡重夫 外5社	採 択
陳情19号	汚物貯蔵施設の対処について	中保区長 長谷川久	継続審査
陳情20号	公営住宅木造化推進について	福井県木材協同組合連合会 理事長 岡本等 福井県森林組合連合会 会長理事 中村秀信 大野市木材協同組合 理事長 亀井利英 大野市森林組合 組合長理事 北山作右エ門	継続審査
陳情21号	医療保険制度の改正に関する意見書提出について	福井県生活協同組合連合会 専務理事 宮川緑夫	継続審査
陳情22号	市道東中・北御門・稲郷線の拡幅と北御門バイパス道路建設について	上庄地区区長 会長 上田範男 外7名	継続審査
陳情23号	大野織物準備センターに対する助成について	大野織物工業協同組合 理事長 稲山喜代二 協同組合 大野織物準備センター 理事長 稲山喜代二	採 択
陳情24号	国立病院・療養所の存続と拡充についてはたらかかけについて	福井県医労協副議長 北村善昭	継続審査
請願7号	市道拡幅舗装整備について	庄林区長 川瀬武夫 外6区長	継続審査